

令和2年度 国際理解行事の記録

12月21日（月） 国際理解講演会 （1・2年生）

「途上国支援の現場にて～国際社会での日本・日本人の在り方を考えてみよう～」

大西靖典さん （開発コンサルタント（株）パデコ 技術部長、元 JICA 職員、
国際協力 NGO シャプラニール理事）

政府と民間の両方の対場での開発援助の現場に関わってこられた本校 OB の大西さん。

「日本の ODA の実例、途上国支援の意義、日本政府の ODA 方針、途上国支援における民間企業と NGO、異文化の中でいかにふるまうか」など非常に濃密なお話をしていただきました。日本が海外でどのような支援をしているかについて具体的な事例を始めて知ったという生徒もいました。



★生徒の感想より

「日本はやはり世界から見ると文化がかなり異なるというのはよく感じます。その文化が、海外支援の形にも表れ、現地の人に寄り添い、責任をもって対応しているといことを伺って誇らしい気持ちになりました。」

「戦後日本が復興・発展するために多くの支援を受けて、現在、同じように支援をしていると聞いて、これからも支援を続けることで、他の国が豊かになり、世界が豊かになって、結果的に日本に還ってくるのではないかと思います。」

「支援活動にも失敗や課題は多くあるということ、それを多くの国の技術・資金協力で少しずつであっても解決していることは、将来的な希望に繋がりました。」

11月11日（水） EUがあなたの学校にやってくる （1年生）



駐日欧州連合代表部の公使・副代表である Haitze Siemens（ハイツェ・ジーマルス）さんにお越しいただきました。1年生の生徒が参加した1時間の全体講演でEUの組織や機能について教えていただいた後、別室に移動して「公使に直撃インタビュー」と題した希望生徒による座談会



を開催しました。エネルギー政策や通貨政策、EU 内での経済格差などについての生徒たちの質問に丁寧にお答えいただきました。

★生徒の感想より

「全く知らなかった EU についてたくさんを知れてよかったです。ただ単に経済圏が広がるだけではなく、いろんな国にメリットがあり、かつ気候変動や環境問題など世界的な問題にも共同で取り組んでいることがよくわかりました。」



「グローバル社会における英語スピーチの持つ力」野村和宏先生(神戸市外国語大学)



「コンピュータやインターネット技術の発達したグローバル時代においても、自分の考えをまとめ、自分の言葉で分かりやすく相手に伝えるスピーチやプレゼンテーション能力の必要性はますます高まっています。何をどのように練習するかを理解し、しっかり練習すればだれでも上達することができます。ここでは、英語による効果的なスピーチやプレゼンテーションを行うための技法を学びます。(野村先生)」



スピーチについての基礎知識やトレーニングメニューに加え、学びの指針になるすてきな格言をたくさん教えていただきました。